

カタクチイワシを約1万尾搬入します 輸送には元気な状態で運ぶための工夫が詰まっています

海遊館（大阪市港区）では2022年10月28日（金）、兵庫県の妻鹿漁港から館内「チリの岩礁地帯」水槽に、カタクチイワシ約1万尾を輸送・搬入します。



「チリの岩礁地帯」水槽



水槽へ搬入する様子

カタクチイワシは日本各地で巻き網や地引き網などにより漁獲されていますが、漁獲の際に鱗が剥がれて弱ってしまう非常にデリケートな生き物です。そんなカタクチイワシを傷つけずに収集する技術を持つ、兵庫県姫路市坊勢島の漁師さんにご協力いただき、カタクチイワシを輸送・搬入します。

カタクチイワシを元気な状態で運べるよう、海水循環や水温調整システムを備えた活魚車で海遊館まで輸送する、海遊館内では酸素を供給しながら台車で運ぶ、体を傷つけないようバケツで水ごとすくう等、様々な工夫を重ね、「チリの岩礁地帯」水槽へ搬入します。今回の搬入作業により、カタクチイワシの展示数は約2万尾となり、水槽の中をダイナミックに群泳する姿がご覧いただけます。

海遊館ではカタクチイワシの展示を通して、海の不思議と素晴らしさをお伝えしたいと考えています。

【取材・素材提供について】

カタクチイワシ搬入作業の様子を、撮影いただけます。

撮影の他、海遊館内での台車運搬作業の体験も可能です。

取材をご希望される場合は、10月27日（木）17：00までに広報チームまでご連絡ください。

※ 輸送からの密着取材は、先着1社とさせていただきます。

海遊館 広報チーム（06-6576-5529）

【 搬入作業スケジュール（予定） 】

10月28日（金）

12時00分 活魚車 海遊館出発

14時00分 妻鹿漁港到着（港内からトラックへカタクチイワシ搬入）

15時00分 妻鹿漁港出発

17時00分 海遊館到着 水温調整ほか、水槽への搬入準備を行う

17時30分 「チリの岩礁地帯」水槽へ搬入作業開始

18時30分 作業終了

【 カタクチイワシについて 】

英名 Japanese anchovy 学名 *Engraulis japonicus*

カタクチイワシ科。北海道から九州南岸までの沿岸域、瀬戸内海に分布する。沿岸近くの表層付近を大きな群れを形成し遊泳する。最大約20cmまで成長し、大きく開く口の上顎が目立つため「片口」の名がついた。自然界では、様々な海洋生物の重要なエサとして生態系を支えている。



【 「チリの岩礁地帯」水槽について 】

水槽容量 250t 水温 18°C 展示面積 40 m²

南米チリ沿岸の環境を再現しています。主にカタクチイワシとマイワシを展示しています。

【 カタクチイワシ担当飼育員からのコメント 】

体が小さく弱いカタクチイワシは様々な海洋生物のエサとなりますが、なすすべなく食べられているわけではなく、天敵から身を守るために大きな群れを作って生活しています。そんな群れを展示するためには、デリケートなカタクチイワシの状態に気を配りながら輸送、搬入しなければいけません。今回追加搬入をすることでより大きくなるカタクチイワシの群れの美しさを、たくさんのお客様にご覧いただきたいです。